

〔様式 1〕

協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	耕作放棄地を活用した笑顔あふれる地域交流の場づくり
28年度募集テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 『笑顔』 <input checked="" type="checkbox"/> 『場づくり』 ※該当テーマに <input checked="" type="checkbox"/> してください。
テーマとの関連	◎テーマをどのように受け止め、貴団体の取組と合致すると考えたのかをお書きください。 各種団体と連携して笑顔あふれる子供たちを育てるため、耕作放棄地を活用して子どもたちの農業体験と地域交流を深める場をつくる活動を行っている。
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	課題① 急速に都市化が進み、農業の担い手が減少し、耕作放棄地が増えている。 《目標》耕作放棄地を、地域交流の場として活用する。 課題② 従来から住んでいた人と新たに住んでいた人との意識の差が生じ、近所付き合いが希薄化し、地域への愛着力が薄れている。 《目標》子どもたちを通じて地元町内会・小学校のPTA、幼稚園、保育園、親子クラブと連携を図り、地域交流を深める。 そして子供たちに横井地域の良さを知って貰い、将来子どもが大きくなって家庭を持った時に、横井地域に帰ってきて欲しい。 課題③ 子どもたちも農業をする機会も減少している。 《目標》子どもたちに農業体験の指導を行い、『食の大切さ』を伝えたい。
取組の内容	1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等 横井学区内の小学1年生(146人)、小学2年生(158人)、小学生3年生(149人)、小学生5年生(147人)、幼稚園・保育園児(226人)、親子クラブの子ども(35人) 合計861人 2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等 連合町内会、小学校のPTA、幼稚園、保育園、親子クラブ 3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。 耕作放棄地を『わくわく農園』と活用して、田や畑での作物の植え付けから収穫まで体験指導や子どもたちとの交流 ●さつま芋づくり (小学1・2年生、幼稚園児、保育園児、親子クラブの子どもたちを対象に、5月に苗植えし、10月に収穫) ●米づくり (小学5年生を対象に、6月に田植えし、10月に稲刈り) ●七輪で煎餅焼き (小学3年生を対象に、炭づくりを学び2月に七輪で煎餅焼き) ●レンゲ畑で交流 (幼稚園児・保育園児を対象に、4月にレンゲ畑で遊ぶ) 4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。 横井小学校ホームページ

協働の体制	<p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など、具体的に記載してください。</p> <p>1年に2回、関係団体のメンバーが集い意見交換会を開催。</p> <p>① 5月に小学校、幼稚園、保育園の先生が変わっても相互理解を深めるため一同が会し、顔合わせや各活動の概要について意見交換を行う。</p> <p>② 12月に各活動の事業報告の反省点・改善点について意見交換を行う。</p>
<p>取組の工夫</p> <p>取組の特徴</p>	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの農業体験の場は、耕作放棄地を有効活用している。 ・農業の指導は、地元の農業を営んでいる方が無償で行っている。 <p>◎取組の特徴やアピールポイントを記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちとの交流を一時的なものにならないように、就学前の親子クラブの2歳の子どもから幼稚園・保育園・小学1年生・2年生・3年生・5年生と複数回の交流を図っている。 ・小学校PTAから『肥料や農薬に係る費用』の提供により、活動の継続性が図れている。
成果・効果	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは『よこいゆめくらぶ』のメンバーに対して、通学時以外にも挨拶するなど複数回の交流の成果が表れている。 ・地元の農家の方と親子クラブの保護者や小学校PTA(保護者)との交流により、地域の大人同士のつながりができている。 ・耕作放棄地が、農業体験の場(わくわく農園)として有効活用している。
今後の活動展開など展望	<p>◎成果の普及や今後の活動展開など展望について記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、農業体験した横井の子供たちが将来家庭を持った時、耕作放棄地を『家庭菜園』として活用して『安心・安全な野菜づくり』や『家庭菜園』と通じて交流を深めたい。そのための支援活動として、耕作放棄地に関する情報提供、野菜作りのアドバイスや農器具の貸し出し等を考えている。

『よこいゆめくらぶ』の活動状況



1. さつま芋づくり体験(親子クラブ、保育園、幼稚園、小学1年・2年生)

「わくわく農園」において、畝作り、苗の植付、蔓切り、芋掘りなど生産過程毎に指導するとともに、収穫の喜びを味わってもらっています。



2. 七輪体験 (小学3年生)

畑での『炭づくり』を学び、七輪を使って『煎餅焼き』を体験してもらっています。



3. 米づくり体験(小学5年生)

「田んぼの学校」と称して、苗づくり、田植え、草取り、稲刈りなど生産過程毎に指導するとともに、収穫したお米は「おむすびパーティー」や料理実習時の材料として活用してもらっています。



4. その他(保育園・幼稚園)

田植え前にはレンゲを植え、幼稚園や保育園の児童にレンゲ畑で遊んでもらったり、草笛づくりを教えたり、スタッフが尺八を演奏するなど幼児たちとの交流も図っています。



1. 横井学区の課題と『よこいゆめくらぶ』の活動方針

【昭和55年頃(36年前)の横井学区】

- 人口：約8,700人 ●世帯数：約2,700世帯
- ※参考●農家数：約430戸 ●耕地面積：約180ha



- 急速な都市化
- ・大規模住宅団地
 - ・大型商業施設
 - ・国道53号バイパス
 - ・山陽自動車道

【平成27年の横井学区】

- 人口：約16,100人 ●世帯数：約6,900世帯
- ※参考●農家数：約160戸 ●耕地面積：約60ha



■ 横井学区の課題

- ① 急速な都市化により農業の担い手が減少し、『耕作放棄地』が増加
- ② 昔からの住民と新たな住民との近所付き合いが希薄化し、『地域への愛着』の薄れ
- ③ 子どもたちが、農業を通じて『食の大切さ』を学ぶ機会が減少

■ 『よこいゆめくらぶ』の活動方針

- ① 『わくわく農園』として借用
- ② 保護者(PTA)、町内会等と連携
- ③ 子どもたちの『農業体験』を実施

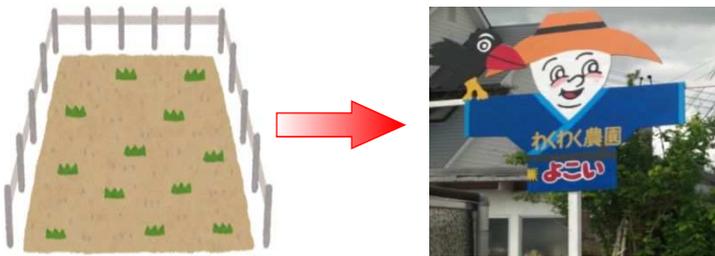
2. 『よこいゆめくらぶ』の活動状況

耕作放棄地を活用した『笑顔』あふれる『地域交流の場づくり』

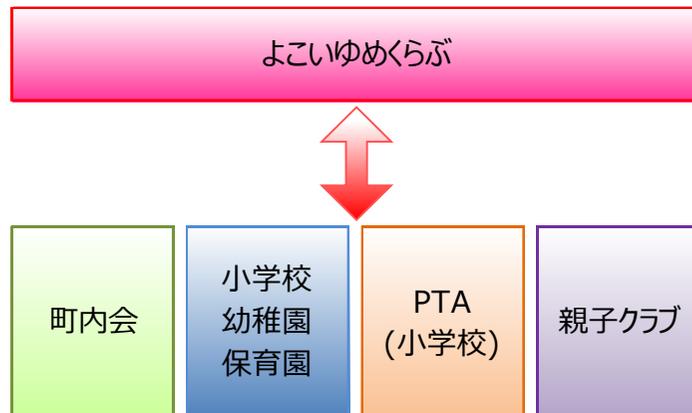
■ 活動の特長

横井学区の各種団体と、連携を図ることにより子どもたちは、2歳から11歳まで『わくわく農園』で様々な農業体験ができる。

① 耕作していない田・畑を『わくわく農園』として活用



② 各種団体と連携し、交流を深める



③ 子どもたちは、『さつま芋づくり』や『米づくり』等を体験

『さつま芋づくり体験』

5月に苗植えし、10月に芋を収穫

親子クラブ(2～5歳)

保育園・幼稚園(5～6歳)

小学1年生・2年生(7～8歳)



『七輪体験』

畑での『炭づくり』を学び、
2月に『七輪を使って煎餅焼き』

小学3年生(9歳)



『米づくり体験』

6月に『田植え』をして、10月に『稲刈り』

小学5年生(11歳)



3. 『よこいゆめくらぶ』のこれからの『夢』(目標)

■ 今後の『夢』(大きな目標)

地域の耕作放棄地を『家庭菜園』として活用し、地域交流を深める



『わくわく農園』で農業体験した
子供たちが、成人して新たな家庭



老夫婦が、耕作できない田・畑



【期待される効果】

・『安全・安心な野菜』が
食べれる。

『家庭菜園』



【期待される効果】

・耕作放棄地が有効活用
され、交流が深まる。

『よこいゆめくらぶ』の支援活動

- ・耕作放棄地に関する情報提供
- ・野菜づくりのアドバイス
- ・野菜づくりに必要な器具の貸し出し

